

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|------------------|
| 事業所番号 | 4071200622 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 怡土福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 怡土 | | |
| 所在地 | 〒819-0375 福岡県福岡市西区大字徳永1065-1 | | TEL 092-807-7576 |
| 自己評価作成日 | 令和02年10月05日 | 評価結果確定日 | 令和02年11月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 | | TEL 093-582-0294 |
| 訪問調査日 | 令和02年11月02日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の自主性を活かし、それぞれが個別ケアに基づき、食事作り・清掃・洗濯などの馴染みの生活をスタッフと共に和気あいあいと行っている。レクリエーション、趣味活動等個々の能力に応じ参加できるようにしている。自然環境にも恵まれており、近隣の散歩・外出等で四季折々に触れることができる。現在コロナウイルス感染防止の為、ホームにての家族参加の行事は行えていないが、以前同様の行事を行い家族へ近況報告し、家族と良好な関係が保てるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「怡土」は、ショッピングセンターや公園等が散在し再開発が進む、自然と利便性を兼ね備えた恵まれた環境の中で、19年前に開設したケアハウス併設の定員9名のグループホームである。隣接する母体医療法人と24時間連携して安心の医療体制が整い、職員全員が介護福祉士で離職も少なく定着しており、質の高い介護サービスを提供している。職員手作りの美味しい料理を利用者と職員が一緒に食べることや、食事作り、掃除、洗濯物たたみ等、利用者の自主性を活かした取り組みが利用者の日常の活性化に繋がり、グループホーム原点の和気藹々とした暮らしが実現している。今年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、家族や地域との交流を控えてきたが、毎日体操の後に利用者と職員が理念を読み上げ、「えい、えい、おー!」と声を合わせて気合を入れて明るく暮らす利用者の笑顔を「コスモス便り」で家族に届け、家族から感謝と信頼が寄せられている、グループホーム「怡土」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 誰もが共有出来るよう、フロアの見やすい位置に掲示し、利用者と共に朝の体操後、声を出し読んでいる。 | 毎朝行う体操の最後に、利用者と職員と一緒に理念を唱和し、「えい、えい、おー！」と気合を入れて、活気ある一日が始まっている。職員は理念を共有し、地域密着型事業所として、併設ケアハウスと協力しながら、理念の実践に取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の中学校の職場体験や、ケアハウスとの合同作品展を開き交流を図っている。ボランティアで、地域の行事への参加を行っている。(今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の為、行っていない。) | 地域の夏祭り、町内の餅つき等に参加したり、ケアハウスとの合同作品展の開催、中学校の職場体験の受け入れ等、地域との繋がりを大切に交流している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、交流を自粛している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括の方や、地域代表の方から運営推進会議の際、情報を提供していただいている。家族来所時に、情報を共有している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 行事の報告や研修報告等を行い、施設運営について意見交換を行っている。また、家族からの意見をより多く聞けるよう、行事の前に会議を開き質疑応答した。(新型コロナウイルス感染症予防の為、書面にて報告し、アンケートの実施を行った。) | 令和2年1月に運営推進会議を開催して以降は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面での報告とアンケートを実施する形で行っている。委員からは、書面で意見や励ましの言葉が寄せられた内容を会議録に記載し回覧している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 包括支援センターの方へ施設の情報提供し、意見交換を行っている。保健福祉局の方へは、運営推進会議の案内状送付し、実施報告を行っている。 | 地域包括支援センターとは密に情報、意見交換を行い、協力関係を築いている。空き状況や事故については、行政担当窓口へ報告を行っている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎年、身体拘束防止の外部研修へ参加し、その後施設にて報告を行っている。また、3ヶ月に1回委員会を開き防止に努めている。 | 内部研修の中で、定期的に身体拘束について学んでいる。3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、日々のケアの振り返りと確認を行い、文書によって全職員へ周知している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修へ参加し、他のスタッフへ勉強会にて伝達している。(現在は新型コロナウイルス感染症予防の為、以前の資料にて内部研修を行っている。) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度の理解を深めるため、勉強会を行っている。又、資料などに変更がないか、包括支援センターの方などへ尋ねている。 | 勉強会を開催し、権利擁護の制度について理解を深めている。また、制度に関するパンフレットや資料を用意し、必要時には制度の内容や申請方法について説明し、活用できるよう支援している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者・家族の方が十分に理解し契約できるよう説明を行っている。都度、疑問に思うことを質問できるよう時間にゆとりがある日に、来所して頂いている。又、可能な限り相談員も同席し手続きを進めている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会や運営推進会議にて意見交換を行っている。家族会会長の意向により、意見箱を玄関に設置し、家族からの意見をまとめて報告される。 | 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、家族を招いての行事や家族会を開催できなかったが、電話でのやり取りを密に行い、「コスモス便り」で利用者の暮らしぶりを伝える等、家族とのコミュニケーションを通して意見や要望の把握に努め、運営に反映している。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者出席の上、毎月職員会議を開き、職員の意見や要望があれば、報告している。 | 月1回、職員会議を開催し、その中で勉強会や委員会からの報告も行っている。職員から出された意見や提案、要望については検討し、ホームの運営や業務改善に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況や実績等を、管理者より報告を行っている。パートスタッフの就業時間等も意見を尊重し、対応している。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用に関しては、人柄・意欲等を考慮し採用している。定年再雇用制度導入、休暇の取得を促し社会参加や、自己実現の権利は保証されている。 | 職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別、資格の制限はなく、人柄や意欲を優先している。職員一人ひとりの能力を活かし、適材適所に役割分担して、やりがいを持って働けるよう配慮している。職員の処遇改善を進め、経験の長い職員が定着している。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 外部研修にはなるべく多くの職員が受講できるよう対応している。また研修報告は、毎月の勉強会にて伝達し、報告書は全スタッフが閲覧できるようにしている。 (コロナウイルス感染症予防の為、外部研修は控えている。) | 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、外部研修への参加は控えているが、内部での勉強会の中で、人権について改めて考える機会を設け、振り返りと確認を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修にはなるべく多くの職員が受講できるよう対応している。また研修報告は、毎月の勉強会にて伝達し、報告書は全スタッフが閲覧できるようにしている。 (コロナウイルス感染症予防の為、外部研修は控えている。) | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修等を通じた施設の方と情報交換し、交流を深めている。又、関連施設へ訪問し同業者との交流を図りサービスの質の向上に努めている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居相談の際は、本人に会い心身の状態を観察し、本人の思いに向き合い情報を職員間で共有し、可能な限り意向を尊重し、安全・安心に生活できるよう支援している。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族来所時や、電話で本人に対する思いや施設生活での要望を尋ねている。家族とすべての職員が良好な関係を保てるよう、全職員に家族の意向を伝え、安心して対話できる環境をつくっている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居相談時に本人や家族の意向・状況等を確認し本人に合うサービスにつなげるようにしている。又 早急な対応が必要な際は、他のサービス利用を提案し支援している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 相手を尊重しつつその方に合った日常的な作業を共に行う等、お互いが協働しながら、和やかな生活が送れるように、場面づくりや声掛けをしている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来所時や電話で、本人の日ごろの状態・新たに気付いた事など、報告・相談するようにしている。心配な点は、家族と話し合いながら解決するように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出等で本人のなじみの場所へ出掛けたり、家族の協力により家への一時帰宅・墓参り・美容室等、一人一人の生活習慣を尊重している。 | 新型コロナウイルス感染症対策のため、面会は制限を設け行っている。家族の協力で、「家でお茶してきます」と一時帰宅したり、これまでのように会えなくても電話で話をする機会を設ける等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事の席等気の合う方と会話できるよう工夫している 又、入居者同士で入浴や食事の声掛けをして頂いている。余暇活動は、お互いの関係が良好に保てるように、グループ作業も試みている | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院入院中はもちろん、退居された後も経過を見守り、家族からの相談に乗っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々に関わりの中で声を掛け、言葉や表情など観察し、気持ちを汲み取り支援している。困難な場合は、家族と話し合い以降の把握に努めている。 | 長く勤める職員も多く、馴染みの関係の中で、日々声を掛け合いながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。意向表出の難しい利用者には、表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前に本人・家族から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。これまでの暮らしの情報を知ることで、十分な情報が得られるように聞き取りなど行っている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の生活のリズムを把握した上で、日々の精神状態に合わせた行動も理解しつつ、その人の1日の全体像を把握できるよう努めている。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプラン作成時に本人・家族と話し合い、意向を聞いた上で本人の視点に立ち、1番望まれているであろうことを計画し作成している。 | 担当職員が、本人、家族の意向を聞いて、それぞれ計画を作成し、計画作成担当者が確認している。カンファレンスで職員間の気づきを出し合い、反映させた介護計画を3ヶ月毎に作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録にケアプランを配置し、気付いたことをすぐにプランに基づいて記入できるようにし、記録している。 又職員間で情報交換・共有しケアプラン作成に活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時その時の本人や家族の状況に合わせて、職員間で話し合い対応・支援している。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアとの交流や、近所での買い物に行くなどし、暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 連携病院にかかりつけ医がいる入居者はもちろん、その他の病院にかかりつけ医がいる場合であっても、最適な医療を受けられるよう支援している。 | 隣接する母体医療法人と24時間の連携体制が整っている。かかりつけ医の定期受診は家族対応でお願いし、連絡を取り合いながら、情報を共有している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師の勤務時、バイタルの記録や体調の変化などを伝えている。又、必要時は受診同行も行き、病院との連携も行っている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は、利用者の状態を訪問や電話で情報交換している。 又、相談にも努め、病院との関係を築いている。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時、重度化に伴う対応についても丁寧に説明し、同意を得ている。看取りは行っていないが、出来る限りホームで生活していけるよう支援している。重度化した際は、病院や他施設と連絡を取り合い、支援に努めている。 | 重度化や終末期に向けた方針については、契約時に説明し、承諾を得ている。看取りは行っていない旨を伝え、その中で、出来るだけホームでの暮らしが継続できるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年勉強会にて、心肺蘇生の流れや、応急手当・初期対応の訓練を行っている。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、昼夜を想定し、消防・避難訓練を行っている。緊急連絡簿を作成し、地域との協力体制を築いている。 | 年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、利用者全員を速やかに避難誘導できるよう、体制を整えている。また、併設のケアハウスと合同で、飲料水や非常食の備蓄を行っている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 対話などには十分配慮し、プライバシー及び自尊心にも留意しながらケアを行っている。本人の性格など考慮し声掛けしている。 | 利用者一人ひとりを尊重する介護サービスについて日常的に話し合い、確認している。特に、排泄や入浴の場面では、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮したケアを行っている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 外出を希望される際は、可能な限り希望に添えるよう都度対応している。散歩や買い物などある際は、出かけることが可能な時間を伝えて同行する。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 清掃・食事作り・レク趣味活動の機会を設けるが、個々人のペースや気分に合わせて参加・取り組みは各個人判断に任せている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の更衣や、入浴準備の際は一緒に行い、気分に合わせて選んでいただいている。散髪は本人の希望を聞きながら行っている。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜切り・配膳・盛り付け・片付けを状況を見ながら依頼し、スタッフと一緒にやっている。献立にも時には、利用者からのリクエストを取り入れ作成している。 | 利用者の得意なことを見極めて、包丁を持つての野菜切り、配膳、盛り付け、食器洗いを一緒に行っている。職員が作る家庭的で美味しい料理を提供し、利用者職員が同じ料理を一緒に食べる、和気藹々とした食事の時間である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事のバランスに偏りがないう献立を作成し、提供している。咀嚼や嚥下その日の体調に合わせ、量や形状にも配慮し対応している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後一人一人に声掛けし、個人に合った口腔ケアの援助を行っている。義歯の管理が必要な方は預かり、洗浄している。又、訪問歯科による口腔ケアの指導を随時受けている。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を基に、排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。 | 利用者一人ひとりの習慣や排泄のパターンを把握して、それぞれに合わせた声掛けや誘導を行い、重度化してもトイレでの排泄を基本としている。夜間帯も巡視時に体動があれば声掛けし、誘導している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立に食物繊維の多い食材を入れたり、適度な水分補給を行っている。全入居者の方に毎朝牛乳を提供し、便秘の予防を行っている。医師や看護師の指導の下、下剤服用の管理を行っている。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 原則、月水金の午後であるが、入浴順番・時間など可能な限り、希望に合わせて落ち着いてゆっくり入浴して頂けるようにしている。 拒否のある方には声掛けを工夫したり、時間をずらして対応することで安心して入浴できている。 | 月、水、金曜日の午後からの入浴を基本としている。出来るだけ、利用者一人ひとりの希望に合わせたタイミングで声掛けし、入浴してもらっている。拒否のある方に対しては、時間を置いたり、人が代わる等して工夫しながら柔軟に対応している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中、レクや余暇活動、散歩に参加を促し、適度に体を動かす事で、夜間良眠出来るよう支援している。また、夜間の不眠時は話を傾聴したり、飲み物などを提供し安心して眠れるよう支援している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬表にて薬の内容を把握し服用時にはスタッフがダブルチェックを行い、飲み忘れや・誤薬がないよう努めている。症状に変化がある場合には、速やかに医療機関に連絡し、調整・対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 清掃・食事の準備、選択物干しなど、個人の能力に合わせて協力を得ている。作品作りや脳トレ・歌など、その方に合った楽しみごとを提供している。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナウイルス感染防止につとめ、散歩・ドライブに出かけている。 | 新型コロナウイルス感染症対策のため、外出は控えているが、ホーム回りの散歩やドライブ、テラスでの日向ぼっこ等、工夫しながら、利用者の気分転換を図っている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 施設に預り金を預かり、希望に応じて買い物支援・代行を行っている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望により電話をつなげいつでも会話ができるように支援している。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内には季節の花やイラスト・作品を装飾している。衛生面・室温に注意し、居心地よく過ごせるようにしている。各所に室温計を設置し、室温管理に努めている。 | 利用者と職員が、毎日一緒にホールの清掃を行って清潔な環境を整え、温度・湿度にも注意して、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。ホールの壁面には、利用者と職員が共に作成した季節毎の作品を飾り、温かな雰囲気のある共用空間である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | それぞれ好きな場所で談笑したり、テレビや新聞読書をし過ごされている。落ち着いて過ごせる環境づくりに取り組んでいる。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に家族へ相談し、環境の変化が大きくなり、馴染みの物を極力持ち込んでいただいている。個人の状態に合わせ、安全に過ごせるよう持ち帰って頂くこともある。 | 家族の協力を得て、自宅で使っていた馴染みの家具や身の回りの物、大切な物を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。また、利用者と職員と一緒に居室の清掃を行っている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室のレイアウトは、家族・本人と話し合い行っている。共用部は、安全に過ごせるよう危険な物の配置を避け、自立した生活が送れるよう努めている。 | | |